**エリヤの、**の、イスラエルはきなにわれました。そのはからのでしたが、そのイスラエルのは、バアルというをうりのやたちとになって、をしくくどころか、たちのやをることだけにがくらんでいました。その、もをざけ、のにはをかず、のをえるようになったのです。そのため、はエリヤをにわして、きながあるとげさせた、をサレプタののやもめのところにられました。それはエリヤがそのやもめにけられ、いをりえられるようにするためで、のはそのやもめとエリヤのいをっています。がされたしいので、やもめはのとにのをし、それからぬことだけをつつもりでした。はのをするためにをっていましたが、そこにれたエリヤは、にのためのとれのパンをめました。、やもめはのいをにして、エリヤのをろうとしました。それをいたエリヤは、がそのえりにすることをしましたが、ずはのためのかのべとしてパンをってくれるようみました。そして、エリヤが、がとそのやもめをしいからってくださることをえると、はエリヤがったとおりにしました。そのおで、ものもそのをりえることができたのです。このやもめのがしているのは、がわたしたちにめられるのはきくてらしいやげものではなく、わずかのだとしても、をめたであるということでしょう。

**ので、**イエスはをして、らのようなたちは、しいきをけるとされました。そのたちはのや、などがにめられることをみ、に、それをもっていやのないをげていたのです。また、たちのをすために、いをまとったり、いりをしたりしました。でも、そういうやりはたちのをうことにぎないものでしょう。そのなとべるかのように、イエスはあるやもめのについてされました。はくのちがたくさんのおをにれている、たったのレプトンをしたのです。それをつめておられたイエスは、たちに、そのやもめこそのたちよりもくをげたとわれました。イエスはそのとして、「はりるかられたが、このは、しいからのっているをすべて、をれたからである。」とわれ、へのののをえられたのです。

**に、**がんでおられるとは、のののように、なやらしいをしてわされるものではありません。しかも、くのによってされるわけでもありません。むしろ、さくてもににおうとすると、それにういによってされるものなのです。のでイエスがあのやもめをめられたのはのなしさではなく、のかさでした。くのたちがのや、や、やなどをりながら、もっとく、に、もっとくなろうとしていましたが、イエスはそののをもめられませんでした。なぜなら、そういうにまっているたちによって、もっとくのがしめられたり、したりするからです。それはのまれることではありません。イエスごものみをたすため、すなわち、ののなしみやみにしんでいる、のとちでしんでいるをめ、うためにられました。そのいのをうするために、イエスはごのをすべててられ、ののよりもしいとなられたのです。そして、にけられるには、ごのさええ、ではさえしまずげられました。イエスがえられたのは、もっとく、かになることではなく、をへりくだってもっとくなることだったでしょう。そういうとしさをして、イエスはのしみとをされ、また、それらをされました。こうしてイエスはのがっているように、ただごのをげて、すべてのにいをもたらすのとなられたわけです。わたしたちがそのいにるには、たちのや、やをもっとかでいものにすることより、わたしたちのにくてくなられたイエスのようにならなければなりません。それによって、だれとしてこののからんじられることなく、みんながにむことができるのです。そのこそ、はとのわり、とのわりのしるしとなれるでしょう。

**ところで、**わたしがている「」というテレビドラマになセリフがあります。「このがにらぬか。こちらにおわすおをどなたとる。おそれおおくもの、にあらせられるぞ。ごのである、の、がい。えおろう。」というセリフです。さて、これがイエスならどうでしょうか。きっと、のたちはのようにんでいるはずです。「このがにらぬか。こちらにおわすおをどなたとる。おそれおおくもの、イエスにあらせられるぞ。このいのである、の、がい。えおろう。」と。これからも、わたしたちがやもめのしさをされ、また、らへりくだって、ごのすべてをしまずげてくださったイエスにうことができるよう、おりします。